

大原社会問題研究所五十年史

III 本格的事業の展開から東京移転まで〔一九二三～三六年〕

再び大原氏との折衝始まる

一九三五(昭和一〇)年二月ころより、大原、高野両氏は、存廃問題について話し合うため、会見の日取り等について書面で打合わせをしてきたが、九月三日にいたり柿原政一郎氏が研究所に高野所長を訪問した。高野氏はまず柿原氏が宮崎市長に就任されたことに対し祝辞をのべた。柿原氏は研究所との従来との関係は本年限りにて絶ちたい旨の大原氏の意向を伝えた。これに対し所長はこの申出を遺憾に思うとのべ、ただし今日の話は高野個人として聴きおくにとどめ、いずれ改めて大原、柿原両氏と正式に会談し、その後で研究所委員にも伝えることにする、と答えた。高野氏はまた倉敷労研に対する関係についての大原氏の意向を聴いた。なおこの会見で、大原氏が買入れ研究所が保管していた土田杏村文庫は六高に寄附することに両者の意見が一致した。

大原・柿原・高野三者会談は翌一〇月三日、甲子園ホテルの一室で行われた。高野氏は前日舞子の浜を散歩しながら沈思熟考した後この会見にのぞいたのである。大原氏は、すでに柿原氏を通じて伝えたと同様の意向をのべ、高野氏はこれを承認せず直ちに別箇の提案をなし、その実行期や発表方法等につき約一時間にわたり意見をのべた。こうして会見は、午後二時四〇分より六時に及び基本線では一致する見とおしがついたが、具体案について最後の結論には到達しなかった。

法政大学大原社会問題研究所五十年史

発行 1970年11月

編・発行法政大学大原社会問題研究所

[前のページ](#) ← 法政大学大原社会問題研究所五十年史【目次】 → [次のページ](#)

研究活動・刊行物 [OISR.ORG全文検索](#)

法政大学大原社会問題研究所(<http://oisr.org>)
